

あぐりdeなんたん

南丹農業改良普及センターだより

令和6年2月
第26号



ベテラン農家の説明に熱心に耳を傾けるサポート講座受講生

特集

新規就農サポート講座
～南丹へ はばたく新たな担い手～ P2

Topics

- 普及センターの取組 P4
- 新規就農者の紹介 P6
- 表彰、退任・新任農業士の紹介 P7

普及センターからのお知らせ ... P8

- あぐりdeなんたん
(南丹農業改良普及センターだより)
紙面での発行終了のお知らせ
- 南丹農業改良普及センターメール配信
登録のご案内
- New Face(新規採用職員紹介)

新規就農サポート講座 「南丹へはばたく新たな担い手」

南丹地域は、ブランド京野菜の出荷額が京都府全体の約4割を占めるほか、黒大豆、小豆、粟、マツタケなど、質の高い農林産物の主産地です。

南丹地域の基幹的農業従事者のうち70歳以上の人の割合は約67%と高齢化が進んでおり、新たな担い手への期待が高まっています。

南丹農業改良普及センターでは、平成8年度から農業の基礎的な技術や知識の習得を支援する「京都丹波就農サポート講座」を開催しています。

これまでに538名が修了し、その多くの方々が地域農業を支える担い手として活躍しています。

令和6年度も開講しますので、南丹地域で農業をがんばろうとしている方、農業の技術・知識の習得と仲間づくりの場としてぜひ参加してみませんか！

就農サポート講座って？

農業を始めたい方や就農直後の方をはじめ、障害者就労支援事業所等で農業指導を行う職員などを対象に、計7回程度の講座を開催しています。

こんなことについて

農業の基礎知識に関する講義

農業の知識としてぜひ知っておいてもらいたい内容を分かりやすく説明します。

- ・ 野菜、丹波黒大豆、丹波くりなどの栽培方法
- ・ 土壌肥料
- ・ 病害虫防除
- ・ 植物の生理生態
- ・ 鳥獣害対策
- ・ 農業気象 など



講義「黒大豆・枝豆」「小豆」

先輩農家の現地経営研修

地域の農業経営者として活躍している

る先輩農家の農地を見学しながら、経営の概要や栽培のポイントについて学びます。受講生からは、「実際に現場を視察することで今後に役立つ具体的なヒントが得られる」と好評です。



現地経営研修「夏野菜 専業農家視察」

受講生同士の交流会

交流会では、お互いの栽培や経営、販路について活発な意見交換が行われます。この場でお互いの栽培の共通点を発見したり、売り先の確保や有機農産物の販売方法などについて悩みを共有したり…。受講生からは「一人ではないという安心感と頑張っている皆さんを見て負けずに頑張ろうとやる気が湧いた」と好評です。連絡先を交換する姿も見られ、受講生同士の輪が広がる研修となっています。



「受講生同士の交流会」



「農機安全操作とメンテナンス実演」

講座を終えたい〜受講生から〜

新規就農希望者 / Tさん

農業の素人である私にとって基礎から丁寧に教えてもらったのがとてもありがたかったです。

座学だけではなく、現地経営研修で現場をこの目で見たこと、前線で働いている方の生の声を聞いた事は、本当に勉強になることが多かったのです。

一番の収穫は、身近に農業をしよう・始めたという方々が自分以外にもこんなにいる事がわかって、一人ではないという安心感と頑張っている皆さんを見て負けずに頑張ろうとやる気が湧いたことです。

講座で学んだことを活かし試行錯誤しながら頑張ろうと思います。

福祉事業所職員 / Iさん

本やネットで見てもよく分からなかった事を分かりやすく、色々と教えてもらう事ができ、とても勉強になりました。今後、この講座で習った事を活かして利用者さん達と、収穫の喜びを味わおうと思います。

新規就農者 / Mさん

基礎的なところを学びました。何軒かの農家さんに行かせていただき、ほ場の状態などが知れてよかったです。その中で、各農家さんのほ場で水の引き方、誘引のやり方、排水のやり方などが見られてよかったです。今後は差別化を図れる作物を作りたいと思っています。主に時期、味などで差別化をしていきます。

新規就農者 / Kさん

座学や先進農家への視察を通して、多くのことを学びました。座学では、栽培にとって不可欠な情報を詳細に理解することができました。先進農家への視察では、営農されている方のほ場で、栽培の様々な留意点や工夫を実際に見て学ぶことができ、大変有意義な時間となりました。疑問点は持ち帰らずに済むよう、質問する機会が設けられていたことも多くを学ぶことができた要因ともなっていました。得たものを一つでも多く自分の身につけ、今後の栽培に活かしていきたいです。

令和6年度 京都丹波就農サポート講座

受講生募集!

- 対象** ①南丹地域の農業の担い手として基礎技術習得が必要な方
②農福連携に取り組む施設で農業技術の指導に携わる職員
③原則全日出席可能な方
15名程度
- 開催予定** 令和6年5月～10月（予定）（平日 午後開催）
- 会場** 京都府園部総合庁舎（南丹市園部町小山東町藤ノ木21）他
- 講座内容** 野菜や豆類の栽培技術、土壌肥料や病害虫防除等 計7回程度予定
- 受講料** 無料
- 申込方法** 申込書に記入の上、持参・郵送・FAX・電子メールで申し込み書類選考の上、5月上旬までに受講生を決定。（詳しくはホームページをご覧ください）
- 募集期間** 令和6年3月21日～4月19日まで
- 問合せ先** 京都府南丹農業改良普及センター（電話 0771-62-0665）
メール：nanshin-no-nantan-nokai@pref.kyoto.lg.jp
ホームページ：「南丹農業改良普及センター」で検索



南丹農業改良普及センターホームページ



普及センターの取組

出荷の早期化に手ごたえ 施設伏見とうがらし栽培

伏見とうがらしの施設栽培において出荷を早めたいという要望があります。普及センターでは、府農林センターが開発したハウス内張り+トンネル被覆の利用と環境モニタリング装置を組み合わせた「ハウス管理技術」による出荷の早期化の実証を行いました。

例年よりも1か月早い3月20日に定植されたハウスでは、収穫開始時期が20日程度早まりました。さらに、保温を目的とし



株元に設置した水封マルチ



環境モニタリング装置

て筒状のフィルム内に水を封入した「水封マルチ」を株元に設置した畝では、株の生育はさらに早まり、旺盛となりました。また、環境モニタリング装置によってスマートフォンからハウスの気温等を把握し、それを基に丁寧な管理を実践されました。

実証農家はこの結果に手ごたえを感じ、今春は取組面積を増やしたいと考えておられます。

関係機関一体となった 「新規就農者栽培研修会」で技術研修

亀岡地域農業再生協議会は、行政や農業者団体などが一体となって地域農業の振興に取り組んでおり、本協議会担い手部会では、新規就農者の支援活動を進めています。新型コロナウイルス感染症が5類移行となった今年度は4年ぶりに、亀岡市主催の新規就農者対象の栽培研修会が開催されました。

普及センターは、トウガラシやダイコンなどの夏・冬野菜の



講義を熱心に聴く新規就農者

技術を講義し、収量や品質向上へのポイントを伝達しました。受講者からは、「技術の見直しになった」、「品種情報などが参考になった」などの感想が寄せられました。また、一層の経営向上を目指す方に対しては、市場視察も実施されました。引き続き、関係機関と連携しながら、新規就農者の技術力向上や経営安定に向けた支援を進めていきます。



野菜栽培の要点を伝達

タマネギ直播栽培における 問題点の抽出

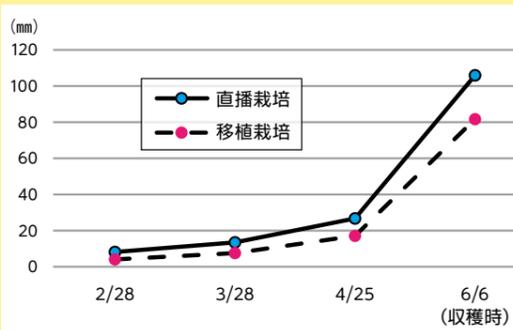
省力化を目的に開発されたタマネギの直播栽培は、限られた労力で生産量を増やせる技術です。

生産者の協力を得て令和5年産タマネギにおいて直播栽培を実証した結果、直播栽培は従来の移植栽培に比べて生育が旺盛で、平均球重は移植栽培274gに対して473gと大きくなったものの、分球している個体もあり、抽台が懸念されました。

一方、土塊が大きい場所での



10/4播種の直播タマネギ(11/29撮影)すでに雑草が発生



地際部の直径の推移

発芽が不安定で、収穫できた個体数は播種した数の70%程度でした。また、播種時の除草剤だけでは雑草を抑制できず、栽培の途中で手作業で除草する必要があります。令和6年産では除草剤の使用体系と最適播種時期を実証しており、南丹地域でのタマネギの直播栽培の実用化に向けて取り組んでいます。

令和6年産では除草剤の使用体系と最適播種時期を実証しており、南丹地域でのタマネギの直播栽培の実用化に向けて取り組んでいます。

有機農業への挑戦 亀岡市環境にやさしい農業の取組への支援

亀岡市は「環境先進都市」として環境負荷低減に取組まれています。その中で有機農業で生産された米を小学校等の給食に供給していくことを目指しています。

普及センターでは、給食米の安定生産を支援するため、亀岡市内の水稲の有機栽培の調査を行いました。

一番の課題は雑草対策です。雑草の発生を抑える対策の一つとして、田んぼの深水管理があります。



生産者交流会で意見交換

その効果を上げるためには、
①深い水位を確保するため
に水漏れがしにくい田んぼ
を選択する。

②土壌の表面が水面から出
ないように田んぼを均平
にする。

③草丈の高い苗(成苗か中
苗)を植え付ける。

がポイントであることがわかりました。今後も、調査結果を生産者と共有し、有望な技術を実証するなど、給食米の安定供給に向けて活動を進めていきます。



報告会にて栽培のふりかえり

表彰者の紹介

(敬称略)



「山の匠」
山椒栽培」
白樫 貢 (京丹波町)



「農の匠」
「高品質な瑞穂大納言小豆の栽培技術」
上田 正 (京丹波町)

令和5年度

京都府農林水産業功労者表彰
亀岡牛生産株式会社 (亀岡市)
村上 武久 (亀岡市)
井尻 稔 (南丹市)
大崎 幹浩 (京丹波町)
アグリチャンス京丹波株式会社 (京丹波町)



外田 誠 (南丹市)

令和5年度農事功績表彰「緑白綬有功章」受章
(公益社団法人 大日本農会)

味にこだわった京地どり生産にいち早く取り組み、京地どり流通推進協議会副会長として、知名度向上と販売促進に取り組み、その功績が認められました。

- 「賀茂なすの栽培」
齊田 昭一 (亀岡市)
- 「聖護院かぶの栽培」
奥村 勝 (亀岡市)
木村 彰男 (亀岡市)
木村 忠志 (亀岡市)
小泉 年男 (亀岡市)
- 「アサヒメロンの栽培」
平井 賢次 (亀岡市)
- 「肉用牛(肥育)」
田中 守 (亀岡市)
- 「壬生菜の周年安定生産」
山内 一美 (南丹市)
- 「自家発酵肥料を使った
黒大豆枝豆の環境負荷低減栽培技術」
北村 照雄 (京丹波町)
- 「土づくりによる高品質な野菜の栽培技術」
阪田 定一郎 (京丹波町)
- 「酪農」
大島 利彦 (京丹波町)



令和5年度 京都府農山漁村 伝承技能登録

新規就農者の紹介



南丹と山城の2拠点で養液栽培
小島 敬久さん
(亀岡市篠町)

小島敬久さんは、亀岡市篠町でイチゴを中心にフリルレタス、ルッコラ、パクチー、クレソン等のベビーリーフ葉物野菜の施設栽培をされています。
大学で水耕養液栽培の技術について学び、その技術を自らが実践していきこうと平成27年に就農、令和4年には京田辺市内に50aの大型養液栽培施設を新設されました。
さらに、大手小売り業者からの需要に応えるため、AS-I AGAP認証の取得をされました。
京田辺市と亀岡市の2拠点で営農に意欲的に取り組まれています。



南丹市だけの甘いおいも
吉田 宙斗さん
(南丹市美山町)

吉田宙斗さんは、南丹市でしか作れないサツマイモ栽培を目指して、南丹市美山町で令和2年に就農されました。
以前は福島県のお菓子加工会社で働いており、原料となるサツマイモの栽培を担当していました。その時の経験と南丹市の寒暖差が激しい気候を活かして、南丹市でしか引き出せない甘味のあるサツマイモづくりをされています。
現在は干し芋や冷凍芋などの加工食品にも力を入れ、将来は法人化を視野に入れて取り組まれています。今後もサツマイモ栽培農家としての活躍が期待されます。



農業とは研究の日々である…
令和4年度
就農サポーター講座修了生
森下 慶さん
(京丹波町和知地区)

森下慶さんは、両親や友人が農業で頑張っている姿に感銘を受け、令和4年にUターンで地元の京丹波町和知地区に就農されました。
現在は、キャベツとネギを主に栽培し、地域の直売所などで販売されています。
特に、品種選びを重視し、甘味の強い品種や昼夜の寒暖差など地域の自然環境を活かせる品種を選んで栽培されています。
森下さんは「農業の楽しいところは消費者の方に『おいしい』と言ってもらえるところと、より良い栽培方法を自ら考え、研究しながら栽培できること」と笑顔で語られていました。

退任・認定された 農業士の皆さん

(敬称略)

退任農業士の皆さん

お世話になりました

- 青年農業士
黒田 真紀 (亀岡市)
- 青年農業士
桂 幸光 (亀岡市)

新任農業士さん

よろしくお願ひします!

- 青年農業士
松崎 伸也 (南丹市)



あぐりdeなんたん(南丹農業改良普及センターだより) 紙面での発行終了のお知らせ

平成16年から「普及センターだより」として、農業現場のうごきや普及センターの取組等の情報を皆さまにお届けしておりましたが、環境負荷低減に向けた取組の観点から今回をもちまして、紙面での発行を終了させていただくことになりました。今後は、普及センターのメール配信（登録方法は以下のとおり）やホームページで情報を発信してまいりますので、引き続きご覧くださいませよう、よろしくお願いいたします。

南丹農業改良普及センター メール配信登録のご案内

当普及センターでは、農業者の皆様に役立つ情報をいち早くお届けするため、様々な情報提供をしていますので皆様ぜひ登録ください。

■ 配信情報例

- 技術情報（大雪・台風対策、病害虫発生情報など）
- 補助事業募集情報
- 各種研修会・相談会の案内（就農サポート講座、農業応援隊事業説明会など）

■ 登録方法

- ①携帯電話等から、nantan@mamail.jpへ空メールを送信してください。
※記載のQRコードを読み取ると簡単に操作できます。
（「メール作成画面はこちら」をクリックしてください）
- ②自動返信メールが届きますので、リンクをクリックしてプロフィールを入力してください。



先輩職員の方々からのアドバイスや農家さんとの交流を通じて農業の知識、技術を習得し、農家さんの目線に立って支援ができるような普及員を目指して頑張ります！

新規採用職員

坂田 雄大 技術師
（南丹市美山町担当）



昨年までは種苗メーカーで技術職として勤務しており、特にキャベツについてはある程度の知識と経験があります。その他の作物については鋭意勉強中です。どうぞよろしくお願いいたします。

新規採用職員

小川 友路 技術師
（南丹市園部町担当）

編集・発行

京都府南丹広域振興局
農林商工部
南丹農業改良普及センター

京都府南丹市園部町小山東町藤ノ木21
TEL.0771-62-0665 FAX.0771-63-1864
ホームページ▶<http://www.pref.kyoto.jp/nantan/no-nokai/>
E-mail▶nanshin-no-nantan-nokai@pref.kyoto.lg.jp



農機乗るならヘルメット・シートベルトの着用。乗る前に点検・整備・安全確認。